

世界へ未来へ

9条連ニュース

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／小倉英敬  
C・ダグラス・ラミス／常石敬一／常岡せつ子  
中山弘正／樋口陽一／山家悠紀夫

主な記事

大軍拡路線 - 愚かな選択 ..... 1  
戦争と原発 ..... 2-3  
沖縄を伝える Part 2 ..... 4-5  
各地区9条連から ..... 6  
政治展望台 ..... 7

第211通常国会が、ようやく開会された。冒頭の岸田首相の「施政方針演説」を新聞で読んだ。「はじめに」から「おわりに」まで12項目からなる演説だが、そのうち「3. 防衛能力の抜本的強化」まで読んだところで我慢の限界が来て、読むのをやめた。例えば、「5年間で43兆円の防衛予算を確保」「敵基地攻撃能力の保有」などという文言はあっても、なぜそれが必要なのかなどという説明はまったくなく、読むに耐えなかったからである。

なぜ説明がないか。説明できるだけの公正な理由がないからであろう。岸田首相が「防衛力の抜本的強化」を言う根拠は、デイビットソン前米インド太平洋軍司令官の、米上院公聴会での発言「6年以内に中国が台湾に侵攻する可能性がある」を信じてのものと思われる。しかし、デイビットソン氏の発言は、予算獲得のためという見方もあるように、現実的な根拠があるとは思えない。

中台関係はこれまでになく良好であり、貿易・人の交流は活発である。台湾の世論調査では、「独立」という意見は少数であり、「現状維持」が80%を越えているという。

もし仮に台湾有事が起これば

も、それは中国側や台湾側の動機によるものではなく、米国の思惑によつてであろう。米国としては中国の世界的地位の向上が非常に気になる場所であり、これを阻んで米国の地位を維持しようという願望は強いと思われる。

中国の力を削ぎ、米国の地位を維持するために利用できるきっかけの1つが、台湾における独立運動の高まりであり、そのことを良しとしな

大軍拡路線  
愚かな選択



共同代表 山家悠紀夫

い中国の介入である。

その際利用できるのが、日本の米軍基地であり日本の軍事力である。

米国にとつて日本は3つのメリットがある。①中国本土に極めて近いところで軍事行動が起これる。②中国からの攻撃は日本の基地に対して行われ、米国本土は無傷で済む。そして、③日本は米国製武器の超多額

の購入者である。

それらに乗つての日本の大軍拡路線であり、岸田首相の施政方針演説である。日本として、これほど愚かに危険な選択はない。

ちなみに岸田首相が日本の国会での報告も議論もないまま、閣議決定のみで米国に飛び、バイデン大統領に報告して肩まで抱かれて歓迎されたというのも、その事情を考えれば当然のことと言えよう。

日本は日中国交回復以来「中国は1つ」の立場を取っている。そこからすれば、中国と台湾の関係は中国の国内問題であり、日本は両者の関係について口を挟む立場にはない。

むしろ日本は、中台紛争は中国の国内問題であるとの立場を明確にして、中台における問題の平和的解決に向けて努力すべきである。それをしていないのは、すれば大軍拡路線の根拠がなくなるからであろうか。

中台戦争に日本が巻き込まれることを心配する向きもあるが、これまで述べたような事情から考えるなら日本はむしろ自分から巻き込まれるに行こうとしているということに他ならない。

やんべ・ゆきお／暮らしと経済研究室主宰